

●肉体の迫力

- ① 37 P 準急の最も傾き行くところ乳ちを与えつつ越えし春あり
- ② 116 P 爪のように切つても切つても生えてくる癌は父の声塗り替えながら
- ③ 122 P 仔猫にも父にも母にも与えたい母乳と思う雨に濡れつつ
- ④ 128 P ムンクの「叫び」の目から鼻から泡立ちて蓮根天婦羅からりと揚がる
- ⑤ 159 P 朝な夕な母は小さな馬となり縁側えんの黄砂を拭いておりぬ
- ⑥ 169 P 金継ぎより聖母戻りぬ 箱をあけ屈むとき床に毛先が触れて
- ⑦ 189 P 左へ左へ黒き切岸現れて何度も落ちる六時間ほど

●家族

- ⑧ 43 P 半世紀生きた私を見てほしい お父さんその日におめでとうを言つて
- ⑨ 66 P 父と子を隔てる硝子のようなものわれは磨きて夏を過ごせり
- ⑩ 113 P 納屋の戸を閉めるに胸の疼きたり義父を閉じ込めるような気がして
- ⑪ 155 P 今日よりは父の使わぬ石鱈の続きを母が使い始める

●人間の時間、とはちがう時間

- ⑫ 17 P アルバムに風は触れゆき遠き日のリンデンバウムの蔭も揺れたり
- ⑬ 50 P 日没まで少し時間をあげるよと空に言われて百合に近づく
- ⑭ 75 P 掃くために木下に入れば樹の生きる時間に合わせ掃いているなり
- ⑮ 131 P 筆の先が三つ描ける遠景の鳥らしきもの百年を飛ぶ

☆想像と日常のバランス

☆字余りの韻律の力強さ

☆連作……場面や主題が明瞭